

# 医学教育分野別評価

岐阜大学医学部医学科

年次報告書

2023（令和5）年度

評価受審年度 2021（令和3）年

2023年8月

岐阜大学医学部



医学教育分野別評価 岐阜大学医学部医学科 年次報告書  
2023（令和5）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2021年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年10月1日より7年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次回の受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35を踏まえ、2023年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022年1月～2023年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35の転記は省略した。

本学医学部医学科では、医学教育分野別評価（2巡目）受審後に「認証評価対応会議」を設置し、医学教育分野別評価における指摘事項に対する検討、実施及び進捗管理を行うこととした。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命を、学生や教員など教育の関係者が十分理解できるように明示すべきである。
- ・ 医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1年次の長期体験型実習において、授業目標の説明をする際に使命の概説を添付し

明示に努めた。医学部憲章及び 3 つのポリシーの見直しを行う予定である。教育プログラム評価委員会を通じて外部の意見を聴取する機会を設け改善に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1. 1-1 高山市内医療機関における初期体験実習のお願い
- ・ 資料 B1. 1-2 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会報告
- ・ 資料 B1. 1-3 第 2 回医学科教育プログラム評価委員会報告

### 1.3 学修成果

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 使命としての医学部憲章に基づいて学修成果を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果はシラバスやホームページに掲載されてはいるが、学生や教員に十分に浸透させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1. 1-2 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会報告
- ・ 資料 B1. 1-3 第 2 回医学科教育プログラム評価委員会報告

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒後臨床研修終了時の学修成果として「初期臨床研修の行動目標」をシラバスに記載しているが、現行の「臨床研修の到達目標（2020年度版）」を明示して卒業時の学修成果と関連づけることが望まれる。
- ・ 医学研究に関して目指す学修成果をより明確に定めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

シラバス、ポートフォリオの内容を見直し、電子化した。2022 臨床実習ポートフォリオの評価内容を見直し、全診療科統一した。授業案内上巻・下巻を HP に掲載した。授業案内上巻・下巻をまとめて Web シラバス化する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 3-1 授業案内 2022 下巻
- ・ 資料 Q1. 3-2 授業案内 2023 上巻

#### 1.4 使命と成果策定への参画

##### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者代表など、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

## 2. 教育プログラム

### 2.2 科学的方法

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 「チュートリアル選択配属」や約 30 人が参加している「学生研究員制度」によって科学的手法の原理や医学研究の手法を教育していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 全診療科の臨床実習において EBM の活用を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科臨床実習において EBM の 5 つのステップを経験させる本格的な EBM トレーニングを開始した。(問題リスト、CQ、文献検索、critical reading、患者への適応) 今後、全診療科に対して EBM を活用するよう働きかける予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 2-1 EBM トレーニング（脳神経内科）

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 東海国立大学機構に経営統合した名古屋大学と教育の共用化を実施しており、生化学、脳神経内科、ライフサイクル授業などのカリキュラムに参加できる機会がある。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

名古屋大学医学部附属病院脳神経内科との共有化の 2 年目を新しいテーマで行なった。Brain Nerve 誌（医学書院）に取り組みが掲載された。初期体験実習で名古屋大学と合同のオンライン学習を通じた 5 週間の実習を開催した。東海国立大学連携 WG により 4 つの講座間での連携のためのミーティングが両講座教員と教務系職員にて開催され、今後の活動の連携を検討した。令和 5 年度は、7 つの講座間で連携のためのミーティングを開催する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 2-1 第 15 回東海国立教育連携 WG 議事メモ
- ・ 資料 Q2. 2-2 大学間連携によるオンライン臨床実習の試み（医学書院）

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

### 基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 6 年間を通じて行動科学や医療倫理学の教育を体系的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学や医療倫理学の教育を 6 年一貫で実施するために、実習期間中であっても講義開催時間には、学生を授業に参加させることについて承認した。令和 4 年度

から医療倫理学に関する講義（臨床講義）の回数を増やした。（4年生：1回を2回に、5年生：0回を1回に）また高学年の医療倫理学の講義では、実際の医療現場に即した内容を扱うようにした。

一年次前期の初期体験実習と後期の地域体験実習において連動性を持たせるようにし体系的なカリキュラムにするための実習改編を試みた。

地域医療人材育成の補助金予算獲得による文化人類学的な要素を取り入れた授業の導入の検討を行う予定である。行動科学についても4～5年生の臨床講義で扱う回数を増やし、6年間を通じて体系的に教育できるようにする。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 4-1 令和4年度第1回臨床実習改革検討WG議事メモ
- ・ 資料 B2. 4-2 令和4-5年臨床講義日程表

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 科学技術や臨床医学・医療の進歩、将来の予測、人口動態や文化の変化などを考慮して、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整、修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

名古屋大学との連携を強め、初年次初期体験実習における生命倫理に関する共同授業を導入し、授業数の拡充に努めている。

令和5年度1年生の初期体験実習にて、名古屋大学との連携授業「論理的倫理的・白熱ディスカッション」を開講する予定である。

カリキュラム委員会で令和4年度版コアカリキュラムの対応を検討する際に取り入れる予定である。

医療倫理学の講義において、腎・透析治療のガイドラインを扱うなど最新の医療情勢を反映させる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 4-1 2023年度初期体験実習事前ガイダンス
- ・ 資料 Q2. 4-2 2023年度初期体験実習

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 研修医が「屋根瓦形式」によって臨床実習における学生の指導に参加している。

#### 改善のための助言

- ・ 一部の診療科では診療参加型臨床実習が実践されているが、全診療科において診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ・ 学生が医療チームに参加して臨床実習を行うために、電子カルテの記載法を改善すべきである。
- ・ 全学生に対して主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保すべきである。
- ・ プライマリ・ケアを臨床実習で経験させるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科と総合内科の臨床自習期間を増やすため、各診療科にアンケートを実施することについて承認した。

実習期間を確保するために各診療科にどの程度の日数等を提供できるかアンケートを実施することとした。

カリキュラム委員会においてカリキュラム改正の検討を行う予定である。

アンケート結果により眼科と精神科の実習を各 1 週間減らし、脳神経内科と総合内科の実習を 2 週間確保したことを承認した。

また、アンケートで実習期間を減らしてもよいと回答した診療科（眼科、精神科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、口腔外科）については、選択臨床実習学生を優先的に配属することとした。

学内臨床実習の眼科、精神科を各 1 週間減らし、脳神経内科と総合内科を各 2 週間確保した。

4年次臨床推論の授業において、総合内科の主導の下でカルテの書き方の授業と演習を拡充した。

プライマリ・ケアを実習できる 2 つの診療所に実習受け入れ先機関としての参加協力を要請し令和 5 年度からの参加を内定した。

診療参加型臨床実習を促すためのポートフォリオの内容見直し、電子化による情報共有を可能とする。さらに各種シミュレーター整備・導入による安全かつ積極的に臨床現場において、患者診療に参画できる。

内科系主要診療科の実習期間の確保と 4-6 年の臨床実習の屋根瓦式指導を推進させる。

令和 5 年度以降の各科の臨床実習期間については、医学教育分野別評価基準及び



医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）を重視し、教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会で改善を検討する。

岐阜大学近隣の在宅医療を専門とするクリニックを、プライマリ・ケアを学べる場としての協定実習先として確保すべく交渉を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 4-1 令和 4 年度第 1 回臨床実習改革検討 WG 議事メモ
- ・ 資料 B2. 5-1 令和 4 年度第 2 回臨床実習改革検討 WG 議事メモ
- ・ 資料 B2. 5-2 アンケート（減らす科向）
- ・ 資料 B2. 5-3 アンケート（時間を割く科向）
- ・ 資料 B2. 5-4 学内臨床実習ローテーション実施表
- ・ 資料 B2. 5-5 授業案内 2021\_ 臨床推論
- ・ 資料 B2. 5-6 授業案内 2022\_ 臨床推論
- ・ 資料 B2. 5-7 実習受入先機関（高山市内診療所）

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 早期体験実習や地域体験実習により、1 年次にすべての学生が学外施設で障がい者や高齢者などと接する機会がある。

改善のための示唆

- ・ 科学、技術、臨床の進歩に関するカリキュラムの調整、修正を担当教員に一任するのではなく、医学部全体として課題を特定し、教育改善につなげることが望まれる。
- ・ 1 年次だけでなく、全学年で段階的に臨床現場での患者診療への参画を深めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会で継続的に検討する。

プログラム評価委員会を発足させた。現状把握のための授業アンケート実施について検討を進めることで決定している。

## 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された水平的統合の促進について、テュトリアルコース

を中心に進めている。

改善のための示唆

- ・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに推進することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

社会医学的な要素のある地域医療に関する部分は継続性を持たせ垂直的統合の足がかりを取り付けた（1.2.4.5年次）。

教育プログラム評価委員会およびカリキュラム委員会で継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2.6-1 カリキュラムマップ 2023
- ・ 資料 B2.6-2 医学概論講義日程

## 2.7 教育プログラム管理

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員に、各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ カリキュラム委員会を定例化して十分な役割を果たすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会にて検討した事項について、カリキュラム委員会で今後審議する。

カリキュラム委員会をできるだけコンスタントに開く方策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1.1-2 第1回医学科教育プログラム評価委員会報告

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を  
含むことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

関連病院の代表等を加える。関連病院の指導医等を加える。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 7-1 岐阜大学医学部医学科教育プログラム評価委員会細則

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター」、「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」、医学部同窓会を通じて情報収集を行っている。

#### 改善のための示唆

- ・ 卒業生や地域、社会の意見を取り入れて、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行政（県、市町村）、医師会、関連病院施設の協議会を通じて意見交換を定期的に行っている。学外実習協力施設は学内の臨床実技試験の評価者になり、問題点の確認を行っている。

地域医療医学センター、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム、医学部同窓会等で得られた地域・社会・卒業生の意見を文書化し、教育プログラム評価委員会やカリキュラム委員会でも情報共有する。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 8-1 令和 4 年度 Post-CC OSCE 評価者の派遣依頼
- ・ 資料 Q2. 8-2 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムに関する設置要綱
- ・ 資料 Q2. 8-3 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織図
- ・ 資料 Q2. 8-4 令和 4 年度岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織運営委員会名簿
- ・ 資料 Q2. 8-5 令和 4 年度岐阜県医師育成・確保コンソーシアム企画調整委員会名簿

### 3. 学生の評価

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

###### 特色ある点

- ・ なし

###### 改善のための助言

- ・ 態度評価を適切に実施すべきである。
- ・ 評価方法や合格基準の詳細をすべてのコースで明示すべきである。
- ・ 評価は出題者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 疑義申し立て制度をすべての評価に導入すべきである。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定の e-ポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

一・二年次の実習にて単位が取得できなかった場合、仮進級ではなく、翌年も再度履修するように規則を改訂し、態度評価含めた評価について厳格に再教育できる体制を整備する議論をした。

###### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 4-1 令和4年度第1回臨床実習改革検討WG 議事メモ

##### 質的向上のための水準

###### 特色ある点

- ・ なし

###### 改善のための示唆

- ・ すべての評価において信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ mini-CEX や 360 度評価などの Workplace-based Assessment を導入することが望まれる。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ポートフォリオの電子化に伴い形式的に導入を予定している。

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 卒業試験に統合型試験を導入している。

#### 改善のための助言

- ・ 科目ごとに行われている評価を統轄的に管理して解析するシステムを構築すべきである。
- ・ 学生が経年的、段階的に学修成果を達成していることを保証すべきである。
- ・ 低学年から形成的評価を導入すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現ポートフォリオを改正し、e-ポートフォリオへと繋げることについて承認した。評価方法の統一化について議論し、「5段階評価+評価不能（特殊な科では評価不能な場合がある）」とし、看護部からも評価を受けることとした。

11月末に始まる臨床実習に向けて、7月末までに現ポートフォリオの改正を行うことにした。

eポートフォリオ化を意識しつつ本年度は、より各コンピテンシーや実習中の経験が評価・チェックできるひな型に改変し導入した。

臨床実習の評価方法（評価法の作成）については、大項目は、医学部のディプロマポリシーに基づいた4領域とし、全診療科統一の評価表（5段階評価）とすることを承認した。小項目は、各診療科で実現可能な評価表を作成することとした。

ポートフォリオのサイズを変更できないか業者に確認することとした。（B5→B6）

B6サイズのコンパクトなポートフォリオの冊子体とした。基本項目と各診療科に特化した内容が評価・チェックできる形式とした。

統合試験は標準的問題作成のためのピアレビュープロセスを強化し、作成システムの導入も図った。臨床実習前及び post OSCE の認定評価者の育成と確保をおこなひ、評価と学習の方法を学内教員に周知している。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 4-1 令和4年度第1回臨床実習改革検討WG議事メモ
- ・ 資料 B2. 5-1 令和4年度第2回臨床実習改革検討WG議事メモ

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 学内臨床実習終了時にポートフォリオ審査会を実施し、学外臨床実習を遂行す

るのに適した知識・判断力・問題解決力が備わっていることを確認している。

#### 改善のための示唆

- ・ 全学年において態度評価を充実させ、評価結果に基づいた適切なフィードバックを行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定の e-ポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

e-ポートフォリオの導入に向けて、名古屋大学と連携して検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

## 4. 学生

### 4.1 入学方針と入学選抜

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 岐阜県と継続的に協議し、地域医療を活性化するために地域枠の定員を設定している。
- ・ 推薦（地域枠）の「地域医療コース」では市町村長の推薦を受けた者が応募対象となっている。

#### 改善のための助言

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学生に面接試験を行うと共に推薦型入学試験においては、学力のみならず小論文、面接を課し、アドミッションポリシーに則した学生を選抜している。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 1-1 令和 5 年度学校推薦型選抜Ⅱ学生募集要項

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

面接方法の工夫について検討する予定である。

本部入試課と連携し、疑義申し立て制度の策定に向けて検討する。現在、他大学の情報を収集中。

本部入試課、関係する全学委員会等と連携し、全学制度として疑義申し立て制度を策定する。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q4. 1-1 第 2 回医学科入学試験委員会報告

### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 指導教員（里親）制度を 6 年一貫制として取り組んでいる。
- ・ 発達障害の特性を持つ学生への教育をテーマにした FD が開催されている。

#### 改善のための助言

- ・ 指導教員間で学生支援の格差が大きく、指導教員（里親）制度が実質的に機能するように継続的に改良すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

一部の指導教員のもとでは、里親の会を全学年が集まる形で行い、部活以外の上下のつながりを構築し、互いに相談できる環境ができつつある。

里親の会を全学年で参集または Teams 上で情報共有できる形式とした。また、医学部棟の一角を自習ができるよう開放し、予約制で利用させている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 3-1 2022 年度医学教育開発研究センター年報（抜粋）
- ・ 資料 B4. 3-2 里親の会（アゴラの会）

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 学修に困難を抱える学生に対し、組織的な支援体制を構築し運用することが望まれる。
- ・ 地域枠学生だけでなく、全学生に対してキャリアガイダンスを行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

いわゆるアンプロ学生問題に対応するために「岐阜大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項」を制定したところであるが、アンプロ学生の中には ADHD 等、発達障害に起因することが疑われるケースもあるため、同要項中に「(教務厚生) 委員会は、当該学生の行動等が疾患に起因するものであると疑われる場合は、専門家の意見を聴き、必要に応じて医療措置を受けることを勧めるものとする。」と明記するとともに、同委員会に精神科の医師 1 名を正規の構成員として加えた。

アンプロ報告の方法を明文化し、より多くの情報を収集できる体制を作った。2022 年には、その情報収集方法を活用し複数の問題事例を早期に同定することができ、教務厚生委員長による面談につなげることができている。

学修に困難を抱える学生に対して、(教務厚生委員会が主体となるだけでなく) 指導教員(里親)による六年一貫の継続的な支援が行える体制を整える。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 3-1 2022 年度医学教育開発研究センター年報(抜粋)
- ・ 資料 Q4. 3-1 岐阜大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項
- ・ 資料 Q4. 3-2 岐阜大学医学部医学科教務厚生委員会細則

## 4.4 学生の参加

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ カリキュラム委員会に学生が正規の委員として参加している。

#### 改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価、その他学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。



関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に続き、令和 4 年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生（または卒業生）1名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの企画過程だけでなく、自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

教務厚生委員会についても、（二部制にするなど）可能な範囲で学生が参加できる体制を整える。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 7-1 岐阜大学医学部医学科教育プログラム評価委員会細則

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「岐阜救急医療学生研究会（GEMs）」などの学生の活動を奨励している。

改善のための示唆

- ・ 学生のボランティア活動や社会的活動を大学が組織的に支援することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

ぎふ医療ケアサークルや奥穂高夏山診療所など地域医療や社会貢献活動への参加を促している。

新たに制定した「岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項」中に、社会活動（ボランティアほか社会貢献）についての基準を設けている。

令和 4 年度は、医学科 1 名、看護学科 1 名と 1 団体において、学部長表彰を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q4. 4-1 第 13 回医学系研究科・医学部企画委員会報告
- ・ 資料 Q4. 4-2 岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項

## 5. 教員

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 寄附講座を増設するなどして教員の確保している。

#### 改善のための助言

- ・ 基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の適正数をバランスに配慮しつつ追求すべきである。
- ・ すべての教員の募集と選抜において、教育業績の判定水準を明示すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員採用時に教育担当部分、入試科目担当などをチェックしている。

社会医学特に文化人類学の名古屋大学の教員と協働する連絡体制を作ることができ、教員不足・専門家不足を補うことができる環境にした。実際に4年次授業ライフサイクルなどで協働的に授業を遂行している。

女性教員の登用を積極的に行う。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 1-1 第1回企画委員会記録（R4. 4. 6 開催）
- ・ 資料 B5. 1-2 第12回企画委員会記録（R5. 2. 1 開催）

## 5.2 教員の活動と能力開発

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 「関門評価」により、教員のモチベーションを高めていることは評価できる。
- ・ カナダ マギル大学におけるFDに臨床指導医を継続的に派遣し、教育能力の開発に努めていることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ FDなどを通じ、すべての教員にカリキュラム全体の理解を促すべきである。
- ・ 教員の教育活動を促進するために、教育活動の評価基準を明示すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育関係の評価が不十分であったため、令和5年度から共用試験（OSCE、CBT）への参加回数（評価者）を教員の個人評価の要素（部局項目）に追加した。

共用試験への参加に関して、今後は他大学への外部評価者、独自問題の作成等も評価の要素とすることを検討する予定である。

また、統合試験の問題作成やブラッシュアップ作業についても評価の要素とすることを検討する予定である。

定量的評価（参加回数）ではなく、定性的評価（困難度、責任等）とすることも検討する予定である。

## 6. 教育資源

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 1巡目の評価で助言された講義室の狭隘に対し、改修して収容人員増が行われている。

##### 改善のための助言

- ・ 安全な学修環境を担保するために、医療安全講習会や院内感染講習会への学生の参加を促すべきである。
- ・ 学生定員数を考慮して、解剖実習施設をさらに整備すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

解剖実習室のホルマリン除去装置を更新し、カダバートレーニングが行えるスペース・設備を整備した。

4年生科目臨床推論を改変し、感染症の学習と演習ができる授業編成とし実施した。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2.5-5 授業案内 2021\_ 臨床推論
- ・ 資料 B2.5-6 授業案内 2022\_ 臨床推論

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ デジタルトランスフォーメーション時代に見合うよう、学修法のデジタル化、シミュレーション教育の充実を進めている。

##### 改善のための示唆

- ・ 学生入学定員増加と 2004 年のキャンパス移転後の変化に対応して学修支援施設・設備の改善が行われているが、今後もニーズに対応してさらに整備・拡充を進めることが望まれる。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

講義室に遠隔授業やオンライン授業のための設備を整備し、バーチャル授業シス

テムについてもシミュレーション設備の導入により開始することを予定している。

オンラインチュートリアルを継続しつつ、より効果的な学習が可能になるよう、Teams による資料配布などに各講座で努力をしている。

シミュレーターを複数台購入するとともに、12 月より特任助教を雇用し一層の利活用を促す体制を整備した。

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された学生の臨床経験症例をモニタするために、2016 年度から臨床実習ポートフォリオを導入している。

#### 改善のための助言

- ・ 学生が経験する患者数と疾患カテゴリーを確実に把握し、国際標準の臨床経験を量的にも質的にも達成できるよう、臨床実習施設、指導体制をさらに強化すべきである。
- ・ 学生がプライマリ・ケアを十分に経験できるよう、外来診療、初期診療が経験できる臨床実習施設の整備をさらに進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習改革検討 WG で実習内容についての再構築を行った。さらにカリキュラム委員会で具体化する予定である。

名古屋大学医学部と共同開発チームを立ち上げることができた。実習ポートフォリオの実現可能で必要な実習経験の情報や学生の振り返りができることを念頭にした portfolio の開発に取り組んでいる。

臨床実習 e ポートフォリオについては、既存のシステムを活用する方向で検討を進めている。

内科、総合診療の実習期間を増加させ充実する予定である。学外施設にも依頼する予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 2-1 第 10 回東海国立教育連携 WG 議事メモ
- ・ 資料 B6. 2-2 第 2 回臨床実習改革検討 WG 資料

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 学内外の臨床実習施設の受け入れを検討し、選定している。

#### 改善のための示唆

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点に基づいた臨床実習施設の評価、整備、改善をさらに進めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内外臨床実習施設に FD を実施（ハイブリッド）。特に評価方法や多職種参加について周知した。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q6. 2-1 岐阜大学医学科学生にかかる選択臨床実習 F D ・ 担当者説明会資料

### 6.3 情報通信技術

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 自己学習のための情報通信技術活用とシステム提供が進められている。
- ・ 「インターネットテュートリアル」で他学部学生や他大学医学部学生とともに PBL スタイルでの Web 授業を行っていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・ 電子カルテに関する指針は明記されているが、それ以外の情報通信技術についても指針整備を進めるべきである。
- ・ 情報通信技術を用いた自己学習の実態とアウトカム評価の検討を進めるべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

一部の科では、クリクラ実習中における論文抄読会を ZOOM にて行い、議論を活発化するとともに録画、アーカイブし、他の学生の学習に役立てるとともに、当該科 SNS に学生の同意を得た上で一般に公開している。

MS Teams を活用して、オンライン授業参加・退室の履歴を確認できる方法を確立し、出欠管理などに役立てるトライアルを始めた。

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ 1 巡目の改善の示唆に対応して、学内 LAN や e-ラーニング教材などを活用した

- 「インターネットテュトリアル」、PBL、反転授業などを実施している。
- ・ 学生に対する電子カルテ運用方針を定め、不正使用に係る処分方針も定めている。

#### 改善のための示唆

- ・ 学生が真の診療参加型臨床実習を行えるように電子カルテ記載システムを改良することが望まれる。
- ・ 臨床実習ポートフォリオの電子化や一元管理を進めるなどして、個々の学生の成長をフォローできる仕組みを構築することが期待される。
- ・ 保健医療提供システムへのアクセス体制を構築することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習ポートフォリオについては、まず令和4年度に領域3-2で前述した改善の後、令和5年度からの電子カルテシステムへのアクセスを可能とするe-ポートフォリオシステムの導入に向けて検討を進めている段階にある。

令和5年度から部分導入できるよう電子ポートフォリオの開発を名古屋大学と合同で進めた。

臨床実習e-ポートフォリオについては、既存のシステムを活用する方向で検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 2-1 第10回東海国立教育連携WG議事メモ

## 6.4 医学研究と学識

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 「テュトリアル選択配属（研究室配属）」、「学生研究員制度」、「MD-PhDプログラム」などで研究マインドの涵養を行っている。

#### 改善のための示唆

- ・ 「MD-PhDプログラム」のさらなる拡充について検討することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「MD-PhDプログラム」を対象学年に周知し、令和4年度1名が採択された。

学生の研究マインドの涵養と、さらには大学院進学へとつながるよう、一連の研究支援システムの充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q6. 4-1 第 9 回医学系研究科・医学部企画委員会報告

## 6.5 教育専門家

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 医学教育共同利用拠点としての「医学教育開発研究センター (MEDC)」に教職員が数多く配属され、全国的に医学教育の改善に向けた活動を活発に展開していることは高く評価できる。
- ・ 「MEDC」が全国の医学教育関係者に対して多くのセミナー、ワークショップを開催して教育の向上に貢献していることは高く評価できる。
- ・ オンライン授業対策チームと「MEDC」が協力して CyberFD「医学教育 5min」で教育スキルの周知を行っていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ 岐阜大学医学部の教職員が、カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発などを行うために「MEDC」をさらに活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

様々な改革 WG に MEDC 教員が参画している。

学内においても教育に関しての相談窓口となっている。

医師育成推進センターの教員も MEDC の教員にアドバイスを依頼して、研修プログラムの改革を行っている。

医療者教育スターターキットを MEDC で開発し、各種教育の最新情報を FD として提供できるシステムを確立しつつある。

医療者教育医学修士課程の授業を一部教員に公開し情報共有できる体制を作りつつある。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 5-1 2022 年度医学教育開発研究センター年報 (抜粋)

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ カナダ マギル大学との大学間協定、ハワイ大学および南フロリダ大学との協定を締結し、海外実習の単位認定を行うなど、海外大学と国際的な交流を行っていることは評価できる。
- ・ 「MEDC」は医学教育共同利用拠点として全国の医学部・医科大学と連携を図っている。

#### 改善のための助言

- ・ 東海国立大学機構など国内教育機関において履修単位の互換制度を検討すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

東海国立大学医学部連携ワーキンググループを設立し、1～2 か月に一度会議を設け意見交換をする体制を整えた。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 6-1 東海国立連携 WG\_連携担当者一覧
- ・ 資料 B6. 6-2 第 14 回東海国立教育連携WG 議事メモ

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 学生および教員の海外機関への派遣に際し、ガイドンスブックを作成したり、助成を行うなど、医学部として支援している。

#### 改善のための示唆

- ・ 臨床実習以外の国内外交流プログラムについても拡充させることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学間協定校である南フロリダ大学の医学群 (University of South Florida (USF) Health International) (Assistant Dean/Prof. Lynette Menezes, Assistant Director Jesse Casanova) と岐阜大学保健管理センター及び医学教育開発研究センターは、両校の医学生の間際交流を促すため、2021 年 4 月 22 日 (日本時間) に USF の Student Conversation Series の一環としてオンライン交流会を開催した。USF からは 4 名の学生、岐阜大学医学部医学科からは 3 名の学生が参加した。はじめに Lynette Menezes 教授からアメリカにおける遠隔医療の現状に関する講義があり、その後、ポストコロナ時代の遠隔医療のあり方について両校の学生が活発に意見交換



をおこなった。国際交流が思い通りに実施できない中、本学医学生にとっては自分の意見を英語で表現する練習機会となるだけでなく、アメリカのコロナ禍での医療体制や遠隔教育について知ることができる貴重な学習機会となった。

カナダ・マギル大学と共同で、岐阜県医師育成のためのオンライン FD や本学修士課程の大学院講義等を総計 3 度行った。また、海外臨床実習を希望する学生向けに医療英語課外授業を全 5 回（オンライン開催 4 回、オンサイト開催 1 回・英語 OSCE）実施し、海外臨床実習の準備教育を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q6. 6-1 2022 年度医学教育開発研究センター年報（抜粋）
- ・ 資料 Q6. 6-2 岐阜大学国際交流年報 2021（抜粋）

## 7. 教育プログラム評価

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 2016 年度に医学教育 IR 室が設置され、活動を開始している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を独立して実施する組織を速やかに設置し、活動を開始すべきである。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について教育プログラムの評価を実施し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 4 年度に教育プログラム評価委員会を立ち上げ、教育プログラムの評価、検討を開始した。

プログラム評価委員会を設立できた。外部評価者を交えつつ、今後の計画につき第 1, 2 回の会議を開くことができた。IR 室との連動性を取りながら改革の計画を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 7-1 岐阜大学医学部医学科教育プログラム評価委員会細則
- ・ 資料 B7. 1-1 第 1 回教育プログラム評価委員会資料

### 7.2 教員と学生からのフィードバック

## 基本的水準

### 特色ある点

- ・ テュートリアル教育について教職員ならびに学生に系統的なアンケートが実施され改善が行われた。

### 改善のための助言

- ・ 教員と学生から教育プログラム全体についてのフィードバックを系統的に求めるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会を設立した。テュートリアル教育の評価について再検討する予定である。

## 7.3 学生と卒業生の実績

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 医師国家試験の成績と学生の実績との関連について、医学教育 IR 室によって種々のデータ解析が行われている。

#### 改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果に関して、学生の実績を分析すべきである。
- ・ 進路を含め卒業後の実績について、さらにデータを収集すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センターにおいて地域医療に貢献する人材育成の使命に本データを活用し、アドバイスしている。

## 7.4 教育の関係者の関与

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を行う組織を設置し、学生や教職員など教育に関わる主要な構成者の参画を求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 4 年度に教育プログラム評価委員会を立ち上げ、教育プログラムの評価、検討を開始した。

プログラム評価委員会を設立できた。外部評価者と名古屋大学の教員を構成員とした。大学 OBOG を構成員とする方向で意見交換をしている。

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 医学教育 IR 室における解析結果を学会等で報告している。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に関連病院の指導医等を加え、カリキュラムに対する意見を求める予定である。

### 8. 統轄および管理運営

#### 8.1 統轄

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関わる各委員会に、学生、教職員およびその他の教育の関係者の意見を反映させる体制を整えることが望まれる。
- ・ 統轄業務とその決定事項について、より透明性を高めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に続き、令和 4 年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生（または卒業生）1 名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

#### 8.4 事務と運営

## 基本的水準

### 特色ある点

- ・ 「医学教育開発研究センター (MEDC)」が e-ラーニングで学修できる「医療者教育スターターキット」を開発し、教職員に対して教学関連の活動を支援していることは高く評価できる。

### 改善のための助言

- ・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

東海国立大学機構となり、名古屋大学との教育連携交流、OSCE 事務補助の相互交流を開始している。

医療者教育スターターキットの周知と学務係への部分的導入を進めた。

臨床実習後及び臨床実習前 OSCE の運営補助者として各 3 名の相互派遣を行った。

自己学習用の e-learning 医療者教育スターターキットの教職員全体への導入が期待される。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B8. 4-1 2022 年度医学教育開発研究センター年報 (抜粋)
- ・ 資料 B8. 4-2 第 7 回東海国立教育連携 WG 議事メモ

## 8.5 保健医療部門との交流

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター (CRM)」が設置され、地域との連携活動を活発に行っていることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課と定例ミーティング (月 1 回) の開催を決定した。

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」を通じて保健医療関連部門のパートナーとの協働を構築している。

#### 改善のための示唆

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センター教員が岐阜県地域医療コーディネーターの役割を担う。

### 9. 継続的改良

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 2015年度の医学教育分野別評価受審の際に提出された「自己点検評価報告書」に記載されている「C. 現状への対応」、「D. 改善に向けた計画」が今回の「自己点検評価書」においても同じ内容が随所で繰り返されており、指摘された課題について十分な対応が行われていない。継続的改良を進めるために、可及的速やかに改善を進めるべきである。
- ・ 教務厚生委員会、カリキュラム委員会とは独立した教育プログラム評価を行う体制を構築し、自己点検評価結果に基づく継続的改良を進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム評価委員会を設置した。自己点検評価結果及び、カリキュラム・医学教育改編を前提としたアンケートを準備すべく他大学の事例などにつき情報収集した。

医学部カリキュラムや教育の改革を前提として教員の現状アンケートなどを実施する予定である。